

# 「福祉の町づくりを考える集い」

3月10日 北海道旭川市「旭川勤労福祉会館」



3月10日(土)「福祉の町づくりを考える集い」が北海道・旭川勤労者福祉会館で行われました。

行政主導のインフラ整備の町づくりから、市民が参加し福祉社会を創造していく新しい取り組みが、全国に急速に広まっています。北海道で共に福祉活動に関わる関係者の輪を広げ、この全国的なうねりを伝えると共に、元気な高齢者や障害者の社会参加が当たり前となるような、市民参加の町づくりに向けた取り組みにしていきたいと考えました。

今回は農協中央会旭川支所、コープさっぽろ道北本部、北海道高齢協、北海道労協、北海道ぼけ老人を支える家族の会が実行共催団体となり、ヘルパー講座受講生やその修了生、医療・福祉関係者や自治体、保健所の関係者を含めて、200名を越える参加となりました。

集会は、厚生労働省企画官の樽見英樹氏の講演「むかいやちいくよし支え合う地域をつくる介護保険」の他、シンポジウムでは、福岡県から「宅老所よりあい」の下村恵美子さん、「浦河べてるの家」への支援者であり浦河赤十字病院ソーシャルワーカーの向谷地生良さん、道内13カ所で宅老所(生活支援)を行っている「北海道ぼけ老人を支える家族の会」の長谷川巖さんの3人にご報告をお願いしました。以下、そのシンポジウムの模様を掲載しました。